

総合的な学習の時間 学習指導案（国際理解）

日 時 令和元年10月30日

場 所 音更町立柳町小学校

児 童 4年2組 26名

指導者 教諭 佐藤 紀子

1 単元名 「にているところ・ちがうところ」～ 十勝・セネガル つなガル未来 ～

2 単元について

世界の文化、習慣、考え方は多様である。アフリカ大陸は、人類発祥の地であるとともに、55カ国の顔と文化をもつ多様性豊かな大陸である。今回は、その中の一つ、指導者が実際に訪問したセネガル国を題材とする。

セネガルの小学生と自分の暮らし（衣食住）を比べ、自分の生活をふりかえり、遠いアフリカ（セネガル）であっても、にているところや違うところがあるという「親近感」や「驚き」、自分達の「思い込み」などに、主体的に気づく活動を考え取り入れた。また、最後の学習には、JICAに研修に来られているアフリカ（ブルキナファソ）の方とSNSで繋がり、子どもたちとの交流を実現したい。その際には、子どもたちのそれまでの学びを通して、アフリカの人と進んでコミュニケーションを取ろうとする意欲や態度を大切にしたい。

本時の学習では、開発教育の手法の一つである「レヌカの学び」「風の鳴るメロディ」を「十勝・セネガルにているところ、違うところ」に変え、指導者がセネガルと十勝で見たこと、聞いたこと、経験したこと、思ったことについてカードを作成した。カードは、「十勝」「セネガル」「共通」の3種類にした。そのカードを子どもたちが、グループのみんなで考えながら、「どれが十勝なのか」「どれがセネガルで、そう思う理由は」「共通していることはどれだろう」と考え、カードを分類する中で、十勝（音更町）での自分の生活をふりかえり、セネガルの生活に思いを馳せるといった思考をするだろうと考えた。話し合いながら楽しく活動する中で、異文化に触れるおもしろさや異文化を知る楽しさを知り、他国や異文化の「にているところ」や「ちがう」を「いいね」と言える『多様性を受け入れ、認める気持ち』、『寛容性』の素地を養う。

3 国際理解BASIC

- BASIC—1（地理的項目—知識・理解）
セネガルの地理的場所の確認。生活や習慣、文化を知る。
- BASIC—2（文化・言語的項目—体験・経験）
自国とセネガルの生活をふりかえったり思いを馳せたりしながら、グループで話し合い、「にている」「ちがう」「共通」の視点でカードを分類することができる。
- BASIC—3（情報発信・行動的項目—表現・意識）

自国の文化を大切に思いながら、異文化に親近感をもったり違いを認めたりする活動を通して、アフリカをはじめ外国の人と進んでコミュニケーションを取ったり交流したりしようとする。

4 単元の目標

セネガルの小学生と自分達の暮らし（衣食住）を比べ、自分たちの生活（十勝）をふりかえり、遠いアフリカ（セネガル）とのちがいやにしているところを知ることから、「親近感」や「驚き」、また「思い込み」などに気づかせたい。また、その中で、ますます進展するグローバル社会の中で生きる日本人として、他国の人と仲良く過ごし、共に生きていく上で大切な『多様性を受け入れ、認める気持ち』、異文化の「にているところ」や「ちがい」を「いいね」と受け入れる『寛容性』の素地を養いたい。

5 国際理解の目標

- セネガルの地理的場所の確認。生活や習慣、文化を知る。

〈世界に触れる（intake 活動）〉

- 十勝とセネガルの「にているところ」「ちがうところ」「共通しているところ」を自分の暮らしをふりかえりセネガルの暮らしを想像しながら、グループで話し合い、理由を付けてカードを分けることができる。

〈世界を考える（intake 活動） 対話・ディスカッション（output 活動）〉

- 自国の文化を大切に思いながら、異文化に親近感をもったり違いを認めたりする活動を通して、アフリカをはじめ外国の人と進んでコミュニケーションを取ったり交流したりしようとする。

〈創造力・行動化（outcome 活動）〉

6 指導計画

学習段階	授業の展開	評価の手立てと観点
第1次 (1時間)	○セネガルの文化をもっと知ろう。 ・3年生の学習のふりかえり ・ミステリーバック ・セネガルの言葉、楽器	□発表・交流、ワークシート ・異文化体験① ・ふりかえり
本時 (1時間)	○十勝・セネガル～にているところ・ちがうところアクティビティ ・カードを分ける ・交流 ・ふりかえる	□発表・交流、ワークシート ・話し合い活動①（グループ） ・交流 ・ふりかえり
第3次 (1時間)	○гентボーイ小学校の4年生7人に聞きました。 ・インタビューシート	□発表・交流、ワークシート ・ロール・プレイング（役割演技） ※ブルキナファソ（JICA）の方とのテレビ電話での交流 ・ふりかえり

7 本時の目標

- 十勝とセネガルの「にているところ」「ちがうところ」「共通しているところ」を自分のくらしをふりかえったりセネガルのくらしを想像したりして考えることができる。
 〈 世界に触れる・世界を考える (intake 活動) 〉
- グループで話し合い、理由を考えて、カードを分けることができる。
 〈 対話・ディスカッション (output 活動) 〉
- 自国と離れた異なるアフリカ (セネガル) の文化に対し、「ちがひ」や「思い込み」に気づいたり、「親近感」を感じたりして、受け入れ認めようとする。
 〈 自分と世界をつなぐ (intake 活動・outcome 活動) 〉

8 本時の展開

主な学習活動	□ 評価 ◆ 留意点
<p>第1ステップ <output 活動> セネガルの場所の確認と前時をふり返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ・セネガルの位置の確認 (日本から 20 時間) ・セネガルの文化について思ったこと <p>○本時の課題を把握する。</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 5px; text-align: center;">十勝とセネガルの生活のちがひやにているところを見つけよう。</p>	<p>◆パワーポイント①</p> <p>□前時のふりかえりができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言
<p>第2ステップ <intake 活動・output 活動> グループで十勝・セネガル・共通のカードに分ける。</p> <p>カードを十勝・セネガル・共通の3種類に分けよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人やペアで考える時間をとる。 ○話し合い活動 ① (グループ) <ul style="list-style-type: none"> ・カードを分ける ・みんなでカードを決めた理由を考える <p>「サッカーは、日本でもセネガルでも有名だから共通カードじゃない？」</p> <p>「音更町は小豆が有名だから十勝カードだよ」</p>	<p>◆わからないときは?にする</p> <p>◆誰かひとりの意見で決めないように促す。</p> <p>◆どちらかわからないコーナーを作っておく</p> <p>□グループのみんなと話し合い、協力してカードを分けることができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動 ・発言 ・行動観察
<p>第3ステップ <intake 活動・output 活動> グループで分けたカードを自由に見て、交流する。 (交流の旅・気づきの活動)</p>	<p>◆全員で他グループのカード</p>

○話し合い活動②（全体）

旅に出て気づいたことをみんなで交流しましょう。

① 自分たちのカードと違うところがありましたか？

「動物のカードで、ライオンキングみたいにアフリカにはいっぱい動物がいるから、このカードにしたよ」

「え、北海道でも道にシカや熊が出ることもあるよ」

② カードを分けるのに迷ったカードはありましたか？

「あったよ。すもうのカードが迷ったなあ。セネガルでもすもうをするの？」

「買い物のカードが迷いました。私のお母さんは毎日買い物に行っているからです」

③ はっきりして分けるのが簡単なカードはありましたか？

「水のことや物を大切にすることがわかりやすかったよ」

第4ステップ<intake 活動>

指導者が体験したことを写真で伝える。

※時間があれば、つながりやメッセージを伝える。

- ・「へー、先生キリンやシマウマに会えていいなあ」
- ・「先生、そのご飯、手で食べたの？」

第5ステップ <output 活動>

カードを分ける活動・交流を通して、思ったこと気づいたこと、これからの自分をふり返りとして書

○ふり返りワークシートに本時のふり返りを書く。

「セネガルでは、道でキリンや象を見れると思ったけど、公園でしか見れないなんて知らなかった」

「共通カードがいっぱいあった。セネガルは遠い世界だと思っていたけど、自分たちの生活と似ているところもあっておもしろかった」

「これからは水を大切にしようと思う」

○発表

○終わりの挨拶

を見合う交流。2分で終了。

◆黒板に①、②、③の文字を書いたカードを貼る。

◆どの意見もなるほどね、と肯定する。

◆どの部分が迷ったか、なぜそのカードを選んだのか理由を聞く。

□交流の旅に出て、自分と友達の考えの違いに気づいたり、なぜそのカードを選んだのか理由を発表したりできる。

◦話し合い活動

◦発言

◆パワーポイント②

◆自分の体験として、一つ一つ紐解き、伝えていく。ここでは、正当率を競うのではなく、みんなで考え分類できたことをほめたたえ、新しい気づきや発見を大事にする。

□指導者の体験した写真を見て、自分たちが初めて知るセネガルや思い込みを知る。

◦発言

◆ふり返りワークシートを配る。

◆机間巡視で内容を確認。

◆発表する人、時間を見て。

◆どんな気づきや感想も否定しない。共感的雰囲気を作り拍手して終わる。

□はじめて気づいたことや思ったこと、これからの自分について書くことができたか。

◦ワークシート

◦発表